

福島県社会福祉事業団

まぶら



2024 Vol.80

表紙写真：松明あかし (須賀川市)
たいまつ

地域貢献と職員育成

当法人には、県内の福祉活動の支援要請に応え、特別養護老人ホームや障害者支援施設等で働く職員を派遣し、地域福祉の向上に寄与することを目的とした「地域福祉支援プロジェクトチーム派遣事業」があります。

今回、西郷村立羽太小学校からご依頼があり、9月4日(水)、同校において「太陽の国福祉教室」を開催しました。4年生、3年生の児童が参加して車いす操作や高齢者疑似体験を行いました。「車いす体験が楽しかった。」「(高齢者疑似体験の際)目が見えにくくて驚いた。」などの感想があり、明るく楽しい学習の時間となりました。

当法人は救護施設、特別養護老人ホーム、障害者支援施設など、多くの種類の施設を運営しているため、理学療法士や介護福祉士などの様々な職種の職員でチームを構成できます。これまでコロナ禍の影響もあり目立った活動を展開できませんでした。超高齢化社会を迎え、高齢者、障がい者の皆様が、可能な限り住み慣れた地域で生活し、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるような共生社会を実現するために、地域の皆様と交流する機会が大切だと考えております。特に、今回のように児童の頃から高齢者、障がい者への理解を深めることは、福祉人材の確保にも重要であると捉え、今後このような機会を増やしていければと考えております。



また、地域への職員派遣にあたり、職員は基本的な知識、介護技術を再確認しなければなりません。「教育・知識・介護技術」の勉強会を開催することで、職員一人一人が根拠あるケアを主体的に学び、利用者の生活に合わせた支援を提供することで生活の質の向上につながっております。

移乗介助の勉強会



基本をベースに個別支援の充実を図ります。福祉用具の活用は利用者の負担軽減や業務改善にも繋がることから学んだことを各施設にフィードバックし、実践に結び付けています。

嚥下機能・誤嚥予防の勉強会



食事はおいしさと楽しさが大切です。嚥下機能や誤嚥の基礎知識を学び、誤嚥予防は勿論、回避義務を果たせるよう努めています。



理事長 あいさつ

社会福祉法人 福島県社会福祉事業団

理事長 太田 健三

初冬の候、皆様におかれましては益々御健勝のこととお慶び申し上げます。

はじめに、昨年末に発覚しました障害者支援施設「福島県けやき荘」での虐待事件につきまして、被害に遭われたお客様及びご家族をはじめ、関係者の皆様に多大なる御迷惑と御心配をお掛けしましたことを、深くお詫び申し上げます。現在は七月に設置しました第三者機関「事業団権利擁護調査委員会」において、委員の皆様により再発防止の取り組みを検証いただきながら、虐待の根絶と信頼の回復に全力で努めているところです。

次に、老朽化施設の改築についてですが、特養施設「福島県やまぶき荘」の移転改築につきましては、建築工事が九月末に完了し、十月末に供用開始となりました。また、救護施設「福島県からまつ荘」の移転改築につきましては、実施設計が完了し、造成工事が進行中です。

一方、福島県の指定管理施設である障害者支援施設「福島県かしわ荘」の建替計画につきましては、建築工事及び外構工事が完了し、現在、備品購入手続きが進行中であり、令和六年度内に供用開始予定となっております。

そして、人材確保につきましては、大学等の訪問や法人説明会を実施し、令和七年四月採用の正職員十二名を確保したほか、今年度十月、十一月及び一月採用の地域正職員を十二名確保しました。年々厳しさを増す状況ではありますが、今後はこの秋リニューアルした法人ホームページで、法人の魅力をはじめ、採用に関する情報をアピールし、令和八年四月採用の求人活動に向けて、積極的な人材確保に努めます。

最後に、感染症対策につきましては、今年の冬は「インフルエンザ」、「マイコプラズマ肺炎」、そして「新型コロナウイルス」が同時流行する「トリプルデミック」の可能性が懸念されています。当法人としては、引き続き基本的な感染対策の徹底やワクチン接種等により、お客様や職員を守りながら事業を継続するとともに、お客様の面会や外出、そして職員の研修や交流など、楽しみや潤いのある日常生活を維持していく所存です。

冬期間を迎え、地震や大雪等の自然災害にも万全の備えをとりながら、今後もお客様の「安全・安心」を第一に、地域社会の一員として、法人の使命を果たすべく、果敢に挑戦して参りますので、皆様には二層の御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。



施設概要

- 事業内容 特別養護老人ホーム
- 定員 100名
- 敷地 約9,132㎡
- 建物 鉄骨造平屋建
建築面積 約3,681㎡
- 居室等 1人用・4人用居室
食堂、一般・特別浴室、デイルーム
職員事務室、会議室等
- 住所 〒961-8061
福島県西白河郡西郷村
大字小田倉字上上野原2-2
- 連絡先 TEL 0248-25-2106
FAX 0248-25-5031



デイルーム



個室



4人部屋(個室タイプ)



訓練室



廊下



4人部屋(大部屋タイプ)



援助員室



浴室



中庭

福島県かしわ荘(障がい者支援施設)



けやき荘の隣接地に建設が進められていましたが、無事工事が完了しました。令和6年度内の供用開始(引越し)を予定しています。

福島県からまつ荘(救護施設)



太陽の国敷地内に建築予定で、現在、造成工事が進行中です。令和8年度内の完成を予定しております。

特別養護老人ホーム 福島県やまぶき荘



新やまぶき荘は、これまで通り定員百名で建物構造は鉄骨造の平屋建てになり、入所されている皆様が快適に過ごせる最新の設備を整えた設計となっております。また、視認性を重視した構造になっており、四つのエリアに設けられた援助員コーナーは、その特徴のひとつになります。他にも、基本設計のコンセプトである「新たな多床室型から始まる、これからの特養のすがた」とおり、居室にも大きな特徴があります。従来型の多床室でありながら、共有スペースの土間玄関を配置した個室の4人部屋(二居室)、完全個室(四室)、カーテンレールで仕切られた大部屋(四人部屋×四室)が配置されており、それぞれにプライバシーを尊重した環境が保たれた構造となっております。浴室は入所されている皆様の身体状況に合わせ、負担のない入浴

老朽化施設改築計画に基づき、令和三年度から本格的に進展したやまぶき荘の移転改築は、令和六年九月末日、無事竣工し、地域の皆様を対象とした完成内覧会を経て、十月二十九日に引越し、供用開始となりました。改めて、入所されている皆様、そのご家族様、移転改築事業に関わりのあった建設関係の皆様、そして建設期間中、工事車両の出入り等に対し、ご理解とご協力をいただいた地域住民の皆様には、心から感謝申し上げます。



福島県やまぶき荘
園長
大竹啓史

開所を迎えて

が提供できるように、三種類の浴槽が設置されており、その他、交流できる共有スペースが各所に設けられ、入所されている皆様が心から安心できる生活環境が整った施設になっております。

やまぶき荘のスローガンは「心にゆとりと思いやりの気持ちを持って一人ひとりの、一つひとつの笑顔のために」とし、このスローガンのもと、職員一同、これまで以上に質の高いサービスの提供に努め、入所されている皆様の生活の質の向上を目指して参ります。また、地域との連携も大切にしていきながら、地域の皆様にとっても、やまぶき荘が信頼される存在であるよう、努めて参ります。最後になりますが、入所されている皆様、ご家族様、地域の皆様のご支援に感謝すると共に、今後とも変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



【内覧会】



【開所式】



貸借対照表 (単位:円)

資産の部		負債の部	
勘定科目	当年度末	勘定科目	当年度末
流動資産	1,776,084,396	流動負債	667,175,528
		固定負債	598,285,011
固定資産	7,398,963,039	負債の部合計	1,265,460,539
		純資産の部	
		基本金	10,000,000
基本財産	3,140,416,758	国庫補助金等特別積立金	2,061,333,444
		その他の積立金	2,603,354,000
		次期繰越活動増減差額	3,234,899,452
その他の固定資産	4,258,546,281	(うち当期活動増減差額)	153,557,291
		純資産の部合計	7,909,586,896
資産の部合計	9,175,047,435	負債及び純資産の部合計	9,175,047,435

資金収支計算書 (単位:円)

勘定科目		決算額
大区分		
事業活動による収支		
事業活動収入計	5,585,535,098	
事業活動支出計	5,301,446,293	
事業活動資金収支差額	284,088,805	
施設整備等による収支		
施設整備等収入計	0	
施設整備等支出計	822,394,629	
施設整備等資金収支差額	△ 822,394,629	
その他の活動による収支		
その他の活動収入計	826,489,712	
その他の活動支出計	236,217,016	
その他の活動資金収支差額	590,272,696	
当期資金収支差額合計	51,966,872	
前期末支払資金残高	1,343,837,980	
当期末支払資金残高	1,395,804,852	

役員紹介

職名	氏名	役職
理事長	太田 健三	一般財団法人太田綜合病院会長
副理事長	佐久間 弘元	専任
常務理事	関谷 勝浩	福島県社会福祉事業団事務局長
理事	高橋 廣志	西郷村長
理事	竹之下 誠一	公立大学法人福島県立医科大学理事長兼学長
理事	佐藤 博子	公益社団法人福島県看護協会会長
理事	三浦 爾	福島県保健福祉部長
監事	有賀 秀晴	(有)有賀会計センター代表取締役
監事	佐藤 京子	介護福祉士、介護支援専門員、社会福祉士、登録手話通訳者(福島県・白河市)

事業活動計算書 (単位:円)

勘定科目		決算額
大区分		
サービス活動増減の部		
サービス活動収益計	5,563,323,695	
サービス活動費用計	5,428,445,151	
サービス活動増減差額	134,878,544	
サービス活動外増減の部		
サービス活動外収益計	22,211,403	
サービス活動外費用計	4,864,733	
サービス活動外増減差額	17,346,670	
経常増減差額	152,225,214	
特別増減の部		
特別収益計	1,332,123	
特別費用計	46	
特別増減差額	1,332,077	
当期活動増減差額	153,557,291	
繰越活動増減差額の部		
前期繰越活動増減差額	2,491,687,161	
当期末繰越活動増減差額	2,645,244,452	
基本金取崩額	0	
その他の積立金取崩額	794,379,000	
その他の積立金積立額	204,724,000	
次期繰越活動増減差額	3,234,899,452	

「事業報告」及び「決算」についての詳細は、福島県社会福祉事業団ホームページ(www.fukushima-sj.jp)の情報公開ページでご覧頂けます。

評議員紹介

氏名	役職
秋山 充司	西郷村教育委員会教育長
小木 政夫	一の又行政区代表
菊地 浩明	白河市保健福祉部長
佐川 滋	社会福祉法人清峰会理事 兼障害者支援施設さざなみ学園施設長
霜山 和宏	福島県県南保健福祉事務所健康福祉部長
鈴木 正	白河市社会福祉協議会常務理事 兼事務局長
関 靖男	福島県社会福祉協議会事務局長
中山 隆男	西郷村社会福祉協議会常務理事

県の指定管理を受けて運営するけやき荘において、令和4年9月にお客様への虐待事件が発生し、令和5年12月に発覚した。この事件の発生と、発覚まで時間を要したことを重く受け止め、虐待の根絶と失われた信頼の回復に向け、再発防止策を定め、徹底した改革を行うこととした。

新型コロナウイルス感染症は、令和5年5月に感染症法上の位置付けが5類に移行した。その後も感染拡大と収束を繰り返したものの、基本的感染防止対策を取りながら、事業を継続することができた。また、施設を利用されるお客様には、それぞれに楽しみや生き甲斐を感じながら、地域の方々と触れ合っていたり、4年ぶりに西郷さくら祭りを開催するなど、諸活動に取り組んだ。

中長期経営計画については、「良質な福祉サービスの継続的・安定的な提供」と「経営基盤の強化」を両輪とした、令和14年度までの新たな計画の初年度にあたり、事業計画に反映させることで、着実に実践を開始することができた。

福祉人材の確保はより一層困難となっているが、学校訪問やオンラインによる法人説明会及び求人情報サイトを活用し、積極的な求人活動を実施した。また、新規採用職員試験に加え、中途採用試験を実施し、10月1日付けで2名、令和6年4月1日付けで8名を採用することができた。

人材育成については、より良い職場環境づくりを進め、定着を促進するとともに、OJT等を介し、「自ら考え行動する」職員の育成に努めた。

老朽化施設の改築については、「やまぶき荘移転改築事業」に係る建築工事が、入札不調により工期が半年遅れたものの、その後順調に進んでいる。また、「からまつ荘移転改築事業」については、基本設計を策定した。

県立施設については、令和5年6月に「けやき荘」が供用開始となり、「かしわ荘」についても令和6年3月に外構工事を除く建築工事が完了した。

以上のように、新型コロナウイルス感染症等の影響が残る中でも、老朽化施設建替や物価高騰及び人件費の上昇等の諸課題へ対応し、建設積立金の造成等を含めた財政基盤の強化に努めることができた。

能登半島への職員派遣



令和6年1月1日に発生した能登半島地震をはじめ、各地で発生した自然災害で被災された方々にお見舞い申し上げます。

当法人においても、平成10年の8.27豪雨水害、平成23年の東日本大震災では甚大な被害を被り、全国の皆様から多大なご支援を賜りました。皆様からのご恩に対し、当法人では能登半島地震の発生にともない被災地の福祉ニーズに応えるために職員を派遣しました。

1月15日(月)～21日(日)に石川県能登町の特別養護老人ホームこすもす、穴水町の介護医療院恵寿鳩ヶ丘へ、2月14日(水)～19日(月)に1.5次避難所対応として金沢市の石川県産業展示館へ、5月20日(月)～24日(金)には金沢市のいしかわ総合スポーツセンターへと、3回にわたり計6名の職員を派遣し被災地で支援活動にあたりました。

活動内容としては、高齢者等への食事介助、トイレ誘導、排せつ介助、見守り、巡視、衣服の着脱、必要物品の提供、話し相手等を担いました。現地の福祉従事者の皆さんも、自らが被災したにもかかわらず、「被災して辛い、辛い時こそ利用者に救われる。」と話されたことに、派遣職員は心から利用者を大切に想う素晴らしさを実感したとのことでありました。

また、派遣期間においては、被災地の現状はとても劣悪な状況で、物資不足や断水、排水不可能による衛生的な問題に加え、新型コロナウイルス感染症やノロウイルスの感染拡大、さらには、家屋やご家族を失った方が殆どであり、深刻な状況であったとの報告を受けております。

能登半島地震をはじめ、各地で自然災害に見舞われた方々の一日も早い復旧、復興をお祈りいたします。

いただいた声

事務長:被災して支援がほしいと手を挙げたらすぐに来てくれてびっくりしました。こんなに大変な時期に来ていただいて本当に感謝しています。
ケアマネ:頑張っている皆さんを見ていて、福島県でこういうことが起きてしまった場合は自分が応援に行きたいと思いました。
介護主任:来てくれてどれだけ心身ともに癒されたことが、感謝という言葉では軽すぎるくらいです。本当にありがとうございました。



表紙

松明あかし

たいまつ
須賀川市



「松明あかし」は430年以上続く日本三大火祭りのひとつ。

特撮の神様と呼ばれ、ウルトラマンやゴジラの生みの親でもある円谷英二や1964年の東京五輪でマラソン銅メダルの円谷幸吉の生誕地である須賀川市で、毎年11月の第2土曜日に開催されます。

戦国の世、須賀川城が伊達政宗の攻略を受けた際に、人々が城を守るため手に松明を持って集まったことに由来すると言われ、その後は戦死者の霊を弔うために続けられてきました。

巨大な松明の重さは3トン、長さは10メートルで、約20本の松明をそれぞれ150人の若衆が担いで街を練り歩き、五老山に立てて御神火を灯します。

勇壮な松明太鼓が鳴り響く中、山肌は真っ赤な炎に包まれます。

晩秋の夜空を焦がす松明の火に、毎年多くの見物客が集まります。



ご利用案内

福島県勤労身体障がい者体育館



- ◆定休日
毎週火曜日・祝祭日
- ◆利用時間
9:00~20:00
フットサルの利用も可能です!

太陽の国交流センター



- ◆会議・研修・休憩等
研修室または和室 利用時間 9:00~21:00
※令和5年3月31日をもって宿泊機能が廃止されました。

ボランティア募集

事業団では、多様なボランティアを
随時募集しています。

お話相手・習字・音楽演奏・イベントスタッフ・環境整備
など活動内容は様々です。興味はあるけれど何をしたら
いいかわからない方も、お気軽にご連絡ください。

施設入所のご相談について

ご高齢の方や障がいがある方などに関する
ご利用を希望の際はご相談ください。

《特別養護老人ホーム・
障害者支援施設・救護施設》

ホームページを
リニューアルしました

ぜひ、ごらんください!!

<http://www.fukushima-sj.jp>

このページに関する
お問い合わせ

事業管理部 施設事業課

☎ 0248-25-3020



まごころ 2024/VOL.80

発行 社会福祉法人福島県社会福祉事業団
福島県西白河郡西郷村大字小田倉字上上野原5-3
TEL 0248(25)3100 FAX 0248(25)4659
URL <http://www.fukushima-sj.jp>
発行日 令和6年12月1日